

2019年5月17日(金)

# 香港中文大学レポート

早稲田大学の加瀬裕子教授が、ところざわ倶楽部創立10周年記念行事に生涯学習をテーマに「青春をもう一度」のタイトルで、ミューズスクエアの会場をいっぱい(204名)基調講演を頂いて以来、ところざわ倶楽部に対してアクティブ・エイジングの称号で、ご指導やご提言を頂いて居ります。

今回、香港中文大学の学生30名に対して、老年学の見地から、ところざわ倶楽部の活動を、アクティブ・エイジング集団として紹介して欲しいとのお話で、中原・玉上・佐藤の3人で早稲田大学へ赴きました。

最初に、佐藤が挨拶と紹介、そしてところざわ倶楽部の会員をつなぐ全体事業の説明。続いて中原部長の15のサークル活動についてユーモアを交えながら説明。最後に、玉上部長が、機関紙「広場」やHPについて、通訳なしで説明。下の写真がその時の模様です。



玉上広報部長/香港中文大学の学生に通訳なしで説明

香港中文大学は、日経電子版によると、大変レベルの高い大学で、東京大学よりも上である、と云うように表現されているようです。

昨日、加瀬先生を通じて、香港中文大学から、レポートが届きました。玉上広報部長が翻訳して、HPに掲載して頂けるとのことでした。



